

(演説用)

イタリアの若者のための未来を築くー今に挑み未来に立ち向かう
ボッコーニ大学 基調演説

クリスティーヌ・ラガルド
国際通貨基金 専務理事
2014年12月9日(火曜日)

皆様こんにちはー*Buongiorno!*

マリオ・モンティ総長、そしてアンドレア・シローニ学長より温かいご紹介の言葉をいただき光栄です。

名高い教授、学生そしてゲストの皆様、本日こうして温かく迎えてくださり感謝いたします。

欧州、そして世界で最も著名な大学のひとつであるボッコーニ大学で、このように新学年の基調演説を行う機会を得ることができ大変光栄です。

ボッコーニ大学が高い評価に値すると私が考える理由は、学術面・知性の面で優れているからだけではありません。グローバルな観点を、カリキュラム、文化、価値に真に取り入れています。寛容の精神と多国間主義精神は皆様のDNAに流れていると言っているのではないのでしょうか。この点において、我々は非常に良く似ていると思うのですが、いかがでしょうか。

ミラノを再び訪れることができ大変うれしく思っております。私は度々、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会を初めて訪れたときのこと、そして偉大なダ・ヴィンチのことを思い出します。ダ・ヴィンチは生涯にわたり、多くの街に足跡を残しましたが、彼の類まれなる能力と才能を培いこれが開花したのは、まさにここミラノでした。

ダ・ヴィンチは、まさにルネッサンスを代表する人物でした。多才で実に先見の明に富んだ時代の先を行く人物でした。そして、今日に挑むことで未来に立ち向かい、臆することなく自分の考えを述べました。

「*Chi poco pensa molto erra*、『多くを考えない者が、多くの間違いを犯す』」は、今では私の好きな格言ですが、これに衝撃を受けました。

本日は、私の馴染みのテーマである経済を考える時に、もう少し大きく考えてみたいと思います。ダ・ヴィンチのように、まず真っ白なキャンバスからはじめ、それから未来を描いていきましょう。

我々が未来を描く時には、想像力、エネルギー、そして希望を駆使し、鮮やかな色彩で描くのが普通だと思います。しかし、現在は暗い色が覆っているように思えます。そして本日はまさにこれについて皆様にお話ししたいと思っています。低成長と特に若者の高失業率の定着という灰色の雲。このような画にどうしたら、明るい希望の色を取り戻すことができるでしょうか。

ここボッコーニ、そしてあらゆるところで見られる、教育による恩恵と約束、そして多くの若者が労働市場で直面する過酷とも言える現実との厳しい差に心が痛みます。若者は、教養溢れる知性を労働の場で生かす機会を、日々の労働環境でそのスキルを磨く機会を、或いはキャリアで成功するために必要な経験を得る機会を手にすることができない。これは広く欧州の問題であり特にここイタリアで深刻です。

これは単に若者が背負う十字架ではありません。遅かれ早かれ、社会が背負わなければならない十字架です。慢性的な失業は、経済活動を阻害するのみならず、人々の自尊心を傷つけ格差や時には暴力を助長し社会や諸制度を破壊します。

ですから、若者の失業という問題への取り組みは、国レベルそして欧州レベル双方で、政府、民間部門、そして社会全体の共同責任です。これを念頭に、皆様の未来を形作る上で役に立つ重要な3トピックについて特にお話ししたいと思います。

- (i) まず、若者の失業という問題をより深く掘り下げて考え
- (ii) 次に、国レベルでこれに挑むために採ることができる是正策について考え
- (iii) 最後に、成長を支え若者の失業という問題と戦うための国レベルの諸策を補いつつ強化するための、ユーロ圏レベルの政策についてお話しします。

1. 若者の失業—原因と結果

現在、イタリアの若者の失業率は40%を越えるなどここ30年で最も高い数字となっています。仮に失業者でひとつの地域を作るとしたら、70万人の人々が住むウンブリア州とほぼ同じ規模になります。こうしたデータをモナリザが見たら、微笑みを消し顔をしかめることでしょう。

本日 IMF は「欧州先進国・地域における若者の失業：解決策を探して（*Youth Unemployment in Advanced Europe: Searching for Solutions*）」というペーパーを発表します。ここでは、イタリアのみならず欧州の他の国を対象に、まさにこの問題を検証しています。ここでこのペーパーの主なメッセージを二つご紹介したいと思います。

ひとつは、低成長の時には若者の失業率が高くなります。 平均して、欧州先進国では、低成長は、大人の失業者と比べ 3 倍以上の影響を若者に及ぼします。実際、危機の間で増加した脆弱な国々の若者の失業の約 7 割が、微弱な成長が原因です。

これは何を意味するのでしょうか。成長の回復が一番の優先事項です。我々のリサーチにより、イタリアの GDP が 1 パーセントポイント上乗せされると、若者の失業率を 0.6 パーセントポイント下げることができることが明らかになっています。多くの人々が再び職に就くこととなります。これは大きな前進となるでしょう。

第二に、各種制度が重要です。 イタリアを含め多くの国で、若者の失業率は世界的危機が襲った時には、既にかなり高い水準にありました。危機は単に状況を悪化させたに過ぎません。

これはなぜでしょうか。終身雇用労働者の保護水準が高いもしくは雇用コストが高いといったある種の市場の性格が、若者の雇用を阻むからです。さらにイタリアのような国々では、こうした要因により、若者の雇用がより成長に左右されやすくなっています。

こうした二つのリサーチ結果を視野に入れて見直しその影響について考えてみましょう。1996 年から 2001 年で、イタリアは年平均で 2%ほどの成長を遂げたことで、総失業率を 7 パーセントポイントほど改善することができました。

問題は、我々の現在の成長見通しによると、むしろ 4 年間の成長率は年約 1%とこれと比較しはるかに弱いということです。同時に、インフレは引き続き一貫して低くなっています。これは多くの場合、資源の活用不足が続いているという明らかなサインです。

低成長と低インフレのミックスは有害です。将来の成長見込みが低ければ、今日の投資を控え雇用を抑えるなど、悪循環を生み出します。こうした悪循環を断ち切ることは、イタリアだけではなく欧州全体の課題です。

2. イタリアの潜在能力を解き放つー過去は序章ではない

ここで、我々は暗い色を我々のキャンバスから移動させます。我々は、行動する時には大胆にそして色彩に富んだ考え方をとる必要があります。そして、イタリアの生産性と成長を放つであろう構造改革と制度改革での行動が必要です。

遠近感を出しコントラストを改善した「立体感」の父として、レオナルドは我々の物の認識方法と革新の方法で革命を起こしました。彼が3D絵画の方が遥かに説得力があると指摘するであろうことから、改革を3側面からお話しましょう。

第1の側面は労働市場改革です。今日のイタリアの労働市場は、いわゆる「二重構造」、つまり「内部者と外部者」の問題を抱えています。内部者は極めて高い水準の保護を伴う終身雇用契約を結んでいます。一方で、多くを若者が占める外部者は、有期契約で雇用され研修機会もほぼありません。

これは不当であるのみならず非効率的です。企業が若者に投資する動機付けはほとんどありません。ですから、**雇用創出法**—そしてこれが**段階的に強化される保護を伴った新しい労働契約の創出を重視すること**—が、広く見られる二重構造に対処し市場が労働者と企業双方により良く機能するようにするために、極めて重要です。

雇用創出法のもうひとつの重要な要点は、**積極的な労働市場政策**です。これには、失業者が研修と就職支援を受けられるようにするための支援を含みます。オーストリアとフィンランド、スウェーデンの3カ国全てがこうした政策が有効であることを示しています。たとえばスウェーデンでは、失業中の若者が積極的に就職活動を行う動機付けは、必要に応じ雇用マッチング支援と見習い研修と対になっています。

それでも、雇用創出法は、労働や資本への投資を妨げる、限界税率、もしくは「**税の楔**」の引き下げ措置で補う必要があります。最近の努力にもかかわらず、イタリアのこの税の楔は、OCEDの平均を依然として大きく上回っています。

なぜこれが重要なのか。イタリアの労働に対する税の楔を平均的な欧州レベルまで引き下げることによって、若者の失業を4~8パーセントポイント程減らすことができる可能性があります。これは、6万人から13万人の若者が再び仕事に就くことができる可能性を意味します。

新たな市場と開かれた市場もまた、雇用創出の力強い刺激剤となることができます。たとえば、法曹界を開放し小売部門の競争を強化することで、生産性を押し上げ、労働者が最も必要とされているところで労働者の部門横断的な移動を促すことができます。

ここでダ・ヴィンチのことを考えてみましょう。彼は職と居住地を度々変え、フィレンツェ、ミラノ、ローマ、ボローニャ、ベニスからフランスのクロ・リュセと行く先々で、画家、彫刻家、技術者、解剖学者、音楽家そして数学者と、自らを新たに創造していきました。ダ・ヴィンチの起業家精神と革新的な精神が開花するうえで、柔軟で開かれた労働市場が不可欠でした。この精神とダイナミズムがイタリアでよみがえることを期待したいと思います。21世紀のための生まれ変わったイタリアです。

労働改革は第1の側面です。**第2の側面は司法改革です。**イタリアの脆弱なビジネス環境の主な要因は、その長々と時間のかかる司法プロセスです。一部推計によると、イタリアでは契約を履行するのに1,000日以上かかるといわれています。これはOECD平均の2倍以上です。

また、司法の効率性の地域差は特に労働裁判所で大きく異なります。たとえば、労働紛争の決議を下すまでに、ピエモンテ或いはトレンティーノでは300日かかりませんが、最も経済状況が困難な地域であるプーリアやシチリアでは1,000日以上かかると言われてしています。

司法の効率性の向上は、与信コストの低下、投資の促進、そして重要なことに雇用を促すでしょう。実際、地域差に関する我々のリサーチは、労働紛争の継続期間が半減すると雇用の可能性が約8%上昇することを示しています。

今年はじめに導入されたオンライン民事裁判 (*processo civile telematico*) は、重要な効率性の向上につながるでしょう。トリノ裁判所による「ストラスブール・プログラム」導入の成功は、裁判所のパフォーマンス指標の開発が、司法の効率性と説明責任の向上に貢献することができることを明白に示しています。国全体でのこうしたアプローチの採用は、将来性ある次のステップとなりえるかもしれません。

第3の側面は、銀行部門の改革です。銀行部門が、回復を支えそしてなかでも中小企業部門を支えることができるよう、これを強化する改革が必要です。

現在、イタリアの金融システムは不良債権を抱え込み、与信能力が制約されています。ECBによる包括的評価は、問題の大きさとその潜在的な改善法を示すうえで大きなステップでした。

それでは何をなす必要があるのでしょうか。我々には、企業と家計のバランスシートの浄化を助けるための破たん処理制度が必要です。銀行も同じです。不良債権率を危機以前の水準まで引き下げするためには、償却率の大幅な引き上げが必要です。

同様に、経済への与信フローを促すにあたって中小企業 (SMEs) 部門の復活が重要となるでしょう。SMEs は、民間部門の労働力の約 80%、事業付加価値の 70%を占めるなどイタリア経済の屋台骨です。

その一方で、SMEs は高いレバレッジと収益性の弱さから、大企業より金融危機の痛手を大きく受けています。部門の再建促進に的を絞った包括的な戦略が、成長と雇用創出の力強い推進力となるでしょう。

以上をまとめてみましょう。労働市場改革、司法改革、そして銀行部門改革が、イタリアで、力強く包摂的かつ雇用を生み出す成長というキャンバスを彩る際に視野に常に入れなければならない側面です。

3. ユーロ圏の政策—回復を支える

欧州についてはどうでしょうか。イタリアは常に、欧州の活動と安定性の錨であり、欧州とイタリアの相互の繁栄は密接にリンクしています。

実際、イタリアの努力が実を結ぶためには、永続的で力強い回復をささえるための、ユーロ圏レベルでの包括的戦略で補完する必要があります。ユーロ圏は、エンジンを全開にし総力を挙げなければなりません。

金融政策からはじめましょう。これは、政策形成のなかで重要な位置を占めてきました。今後も需要を支える重要な役割を果たしていく必要があります。

ECB は最近、たとえば大規模な民間資産の直接購入を発表するなど、大胆な措置を採ってきました。こうした措置は、需要を支え一貫して続く低インフレに起因するリスクの回避に貢献するでしょう。

それでも、成長とインフレの見通しが一段と軟化するのであれば、ECB は、ソブリン資産の買い取りなどを通し、そのバランスシートをさらに拡張する用意があると述べています。これは歓迎すべきことですが、金融政策だけでは十分ではありません。

財政政策も果たすべき役割があります。—財政措置は、可能な限り成長志向で雇用に配慮したものでなければなりません。費用対効果の高い効果的な汎欧州レベルの、持続的な成長の基礎の構築に資する公共インフラプロジェクトを考えてみてください。交通、コミュニケーション、エネルギーネットワークなど国境を越える投資を考えてみてください。これらは、革新と生産性の成長を支える重要な要素です。

最後に、そして極めて重要なことですが、公共投資と**構造改革**の実施を支えるためのある程度の柔軟性が「安定成長協定」規則にはあります。改革内容は国ごとに異なるかもしれませんが、規制面の負担の合理化、エネルギーなど製品市場やサービス市場の開放、そして資本市場の深化などが含まれます。生産的な支出と成長と雇用創出を促す措置を促進するために、こうした柔軟性を活用すべきです。

最後に

今日の学生世代が、長い歴史のなかでも最も困難な局面に直面していることは明らかです。失業、特に若者の失業は、あらゆる社会の汚点です。失業は、才能を蝕み望みと威信を奪います。これは多面的な問題であり多面的な解決策が必要です。

しかしここまで私がお話しした解決策は、暗号でもなく右から左に書かれているわけでもありません。ですから、これを読み解くにあたって鏡は必要ありません。シニカルな人は、改革が効果を発揮するまでには余りにも長い時間が必要で、当面の支出が過度に大きくなる可能性があると言うかもしれません。

しかし、皮肉な考え方は、政策の行き詰まりと経済の硬直化のレシピであり、これから脱しなければこうした過去を繰り返すリスクが大いにあります。我々は別の道を選択しなければなりません。容易ではなく大変な努力が必要だが、必要な変革を引き起こす可能性がある道を。

イタリアはこれまでに、困難な状況にあっても耐性を度々示してきました。ですから本日私は皆様に、新たな未来に向け共に努力しましょうとお伝えしたいのです。イタリアの天才が再び解き放たれる未来、そして創造力とダイナミズムが、若者、女性、起業家そして全てのイタリアの人々が共有する裾野の広い繁栄の証となる未来です。

ダ・ヴィンチは我々にどのようなアドバイスをするのでしょうか。「最後の晩餐」を仕上げるのに必要だった多くの年月を考えてみてください。かかった期間は4年とも言われ、さらにその修復にかかった時間を含むならばそれ以上の年月が費やされました。それでも現在、これは生み出された芸術のなかでももっとも美しく、畏敬の念と感動を呼ぶ作品とされています。

我々の若者の輝ける未来を構想し、描き、築くための道具は、我々全員が握っています。賢くこれを使おうではありませんか。

Grazie. ご清聴ありがとうございました。